

2019年度 京都検定講演会【東京】



歴史と文化を知れば見えてくる“京都の魅力再発見、

京都の美意識 “探訪”

～京の美の巨人とその時代を考える！～

主催：京都商工会議所

京都の歴史をひもとくと、そこにはさまざまな“美”を体現した“巨人”が存在していました。真善美や抒情美への傾注、山水河原者と呼ばれる作庭集団の視界、茶道と作庭への情熱、そして無所有と隠遁のなかに見いだす美の源流。戦乱や飢饉・疫病の辛苦、流言飛語や権力による蹂躪のなかにあっても、それらの“巨人”は、嘗々と美意識の伝統を作り上げてきました。今年度は、そんな“巨人”たちとともに京都の歴史を探訪します。

回次	開催日時	テーマ	内容
1	4月 6日(土) 15:30～17:30	藤原定家と藤原家隆の京都 ～和歌における“真善美”とは何か？～	和歌に歌い込まれるべき“真善美”とは何なのか？貴族政治が衰退する後鳥羽院政期にあって、和歌は王朝文化最後の燦めきを放つように詠いこまれ、歌論は火花を散らすかのようにした。その渦中の歌人、定家と家隆。その“真善美”の在処を探ります。
2	8月 3日(土) 15:30～17:30	正徹と心敬の時代 ～“飛花落葉”の抒情美とは何か？～	時代はちがえども滲み出てくる日本人の「抒情」への渴望。なにげない“飛花落葉”に美を感じる意識には、日本人のどんな抒情感が刻み込まれているのか。中世の二大文人である正徹と心敬の抒情観・芸術観から、日本人の“抒情美”の在処を探ります。
3	10月 5日(土) 15:30～17:30	能阿弥と善阿弥の世界 ～「山水河原者」の審美眼とは何か？～	日本建築美の濫觴ともいえる書院造りと庭園。その造作や作庭には「山水河原者」と呼ばれる人びとが関わっていました。彼らは法体となり、身分を超えて将軍や大寺院に近侍し多くの美を生み出してきました。阿弥号をもつ人びとの“審美眼”を探ります。
4	2020年 1月11日(土) 15:30～17:30	古田織部と小堀遠州の世界 ～心美の探求者。叛逆と “きれいさび”のあいだに～	叛逆と破調の美意識に生きた古田織部。織部の弟子で、王朝の美意識を“きれいさび”に昇華させた小堀遠州。豊臣から徳川への政権交代期のなか、彼ら二人の巨人が追い求めた“美意識”とは何か。一筋縄ではいかない、その“美意識”の深淵を探ります。
5	3月 7日(土) 2020年 7月 4日(土) 15:30～17:30	売茶翁と池大雅の京都 ～無所有の美と隠栖の美意識とは？～	売茶翁の点てる一杯のお茶とその多様な問答。俗塵を離れ旅と隠栖に美を見だしていく池大雅。徳川幕府によって築かれた寺請制度で民衆の救済を忘れた寺院と安逸のなかで情性で生きる文人への“反旗”がここにはありました。その“美意識”を探ります。

※テーマ、内容は変更になる可能性があります

【講師】 やがしわ たつり
八柏 龍紀 氏

秋田県生まれ。慶應義塾大学法学部・文学部卒。秋田県立高等学校教諭を経て、都内大手予備校で東大日本史論述演習講師などをつとめる一方で、執筆・講演活動を展開。東京大学全学自由ゼミ、淑徳大学エクステンションセンター講師、また多くの市民講座講師を歴任。著書には『セピアの時代』（大和書房）『戦後史を歩く』（情況出版）『「感動」禁止！』（ベスト新書）、近著に『日本人が知らない「天皇と生前退位」』（双葉社）などがある。



【受講料】 各回 2,500円(税込) ※レジュメ代含む
※ 全5回一括お申込に限り、**お一人様 11,000円**の割引価格となります。

【定員】 各回 120名 (申込完了順。定員になり次第締め切ります)

【会場】 **大正大学**(東京都豊島区西巣鴨3-20-1) ※詳細地図は受講証に記載します。
都営地下鉄三田線「西巣鴨駅」より徒歩2分〔東京駅から約30分〕

※駐輪場はありませんので、公共交通機関でお越しください。

